

くすのき 2 自立活動学習指導案

1 題材 「久留米の訪問先へどのような交通機関を使って行ったら良いか考えよう」

2 指導観

○ 自立と聞くと「自分で自分のことをする。」と考えがちであるが、自分がやりたいと思うことを実現するために、周囲の支援を得て実現することも立派な自立と考える。そのために必要な事は自分の要求を伝えようとする意志と伝える手段(コミュニケーション能力)だと考える。本単元は、進学後や社会に出てから、必要に応じて公共交通機関を利用して移動する機会が増えることを踏まえ「できないことは支援をうけながら公共交通機関を利用して目的地まで移動できるようになること」をねらいとして設定した。また、「読図」などの社会的要素や「お金」「時刻」を扱う数学的要素を入れ、調べる過程の情報収集や活用能力、自分の行動に見通しをもつことができる力、公共の場でのマナーに沿った行動ができる力、コミュニケーション能力、まとめの際の表現力など、今後、生活していく時に必要な「生きるための力」の育成、将来自立した生活を送る上で必要となる力の習得につながっていくと考える。

○ 本学級(肢体不自由学級)には、3年生の男子1名(Aさん)、女子1名(Bさん)が在籍している。

Aさんは、四肢の力が弱く全身のバランスがとりにくいので移動に関しては支援が必要である。また、学習にも支援が必要である。明るく前向きな気持ちを持ち大きな声で挨拶して好感を持たれている。学習面では、過去の出来事に関連させて覚え記憶力に優れている。ひらがなは、一文字読みはできる。筆圧は弱く、思うように手が動かず文字を書くことに困難さがあるので書く欄を大きくする配慮が必要である。また、ら行の発音が不明瞭な場合がある。足し算、引き算は具体物を使って計算している。身近な英単語は音声で覚えている。雨天の日以外は、路線バスを利用して通学している。自宅の近くにあるバス停まで保護者が送り、バスは一人で乗って中学校前のバス停で降りている。公共交通機関の利用には慣れており、運賃はICカードを利用している。

Bさんは、足の変形で装具を付けないと歩行することが難しく杖を常時使用している。また、学習にも支援が必要である。長期記憶が苦手である。具体的には、ひらがな、カタカナ、小学校中学年の漢字を書いたり読んだりすることができるが言葉の意味を理解していない時がある。計算が苦手何度か分数や小数の学習をしているが定着していない。英語はbe動詞と一般動詞が理解できていない。肯定文を疑問文や否定文に変える学習で、忘れたら並び替えることができる単語カードを利用できるように支援をしている。周りとのコミュニケーションをとることが苦手な生活面や学習面でも分からないことがあっても質問せずにそのままにしていることが多い。また、移動は保護者が送迎をしているので一人で公共の交通機関を利用したことはない。

○ 本単元で行う活動について、目的意識を持たせるために、久留米市内にある公共の施設について調べ学習を行う。その際に、生徒本人が一人で公共の交通機関を使用したことがないことを踏まえて、一人で行きたいところに行くことができることの良さを示し、意欲を喚起する。次に(二次)、一次で決定した目的地に行くための計画を立てる。その際、目的地に行くまでの交通機関にかかる費用などを調べるためにiPadを活用して調べ学習を実施する。さらに(三次)、公共の交通機関を利用した際のマナーについて学習を行う。その際、実際の場面を想定したロールプレイを行い、本人が失敗しそうな場面を想定して、公共マナーやコミュニケーションの方法についてまとめる。最後に(四次)、実際に自分の立てた計画に沿って目的地へ行く。

そのために自分の考えや情報を適切な言葉を使って話したり、書いたりする活動と、お互いに意見交換を通して自らの考えを発展させたりまとめたりするために発表の場をつくる。また、目的地を自分で選ぶことで意欲を持たせ主体的に活動できるように調査学習を行う。その際、持ち運びが可能で操作が単純なiPadを活用する。また、将来社会生活を送る上で自分で調べるよりも人に尋ねる方が有効である場合も多いことから、人に尋ねる体験もさせながら人とのコミュニケーションの方法も学ばせていきたい。

3 単元の目標

- iPadを活用して情報を検索することができる。(知識・技能)
- 目的を明確にし、訪問先を決定することができる。根拠を明らかにして相手に理由が伝わるように発表できる。(思考力、判断力、表現力等)
- 目標を達成するために必要な情報を収集して計画に生かそうとすることができる。(学びに向かう力、人間性等)

4 本時 令和元年11月15日(金) 第5校時 くすのき2教室において

(1) 本時の指導観

前時までに生徒は、訪問先を決め、訪問先を決めた理由を述べて発表している。そこで本時は、自宅から訪問先までどのような公共交通機関を使って行ったらよいか、利用する交通機関、乗降する駅・バス停、時刻、料金など、iPadを活用した情報収集の方法を習得させたい。また、生徒がiPadを活用する際に使用方法に戸惑わないように、音声検索するための言葉カードを提示する。さらに、収集した情報の中から、どの情報が必要かを検討するために記録のための学習プリントを準備する。最後に発表する機会を設け、相手に伝わる表現方法を身に付けさせるために、学習プリントに発表の手順を示すようにする。

(2) 本時の主眼

- ・ iPad を活用し情報を得ることができる。
- ・ 必要な情報を学習プリントに記入し、発表することができる。

(3) 準備

- ・ iPad
- ・ 学習プリント
- ・ 訪問先のカードと写真
- ・ 音声検索時のカード

(4) 展開 (ゴシック…思考ツールの活用場面)

段階	学習活動・学習内容	具体的な支援	評価の観点 (方法)
つかむ	1 活動のねらいと方向性を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">行きたい訪問先の確認をする。</div> (1) 久留米市内の地図を見て訪問先の位置を確認する。 めあて	・ 訪問先をイメージするためにカードと写真を黒板に掲示する。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自宅から久留米の訪問先までどのような交通機関を使って行ったら良いのだろう。</div>		
さぐ	2 行きたい訪問先にどのような交通機関を使って行くのか調べ発表する。 (1) iPadを活用した情報収集を行う。 ・ 使用する公共交通機関 ・ 乗降する駅・バス停 ・ 時刻や料金 (2) 情報を学習プリントに記入し発表する。 ・ 発表の仕方	・ 公共交通機関が分かるために交通機関(電車・バス)の写真を準備する。 ・ 調べやすくするためにキーワードを黒板に掲示する。 ・ 時刻を調べるために到着時間を設定する。 ・ 自宅から訪問地までの流れに沿って発表できるように、学習プリントに発表の仕方を示し、確認できるようにする。	・ iPadで検索することができる。(知) ・ 必要な情報を学習プリントに記入することができる。(思)
深める	3 本時のまとめと振り返りを行う。 (1) 本時のまとめを行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自宅から訪問先まで公共交通機関を利用する時に iPad を活用し、必要な情報を収集することができる。</div>		・ 相手に伝わるように、発表することができる。(思)
見つめ直す	4 振り返りシートを記入し全体で交流する。	自己内対話で目指す姿 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">・ iPad を活用することで必要な情報を得ることができた。</div>	